

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成25年1月11日
【四半期会計期間】	第49期第3四半期（自平成24年9月1日至平成24年11月30日）
【会社名】	株式会社リンガーハット
【英訳名】	RINGER HUT CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役会長兼社長 米濱 和英
【本店の所在の場所】	長崎県長崎市鍛冶屋町6番50号 （同所は登記上の本店所在地で実際の業務は下記で行っております。） 東京都品川区大崎一丁目6番1号 （03）5745-8611
【電話番号】	（03）5745-8611
【事務連絡者氏名】	取締役 管理グループ統括 佐々野 諸延
【最寄りの連絡場所】	東京都品川区大崎一丁目6番1号
【電話番号】	（03）5745-8611
【事務連絡者氏名】	取締役 管理グループ統括 佐々野 諸延
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号） 証券会員制法人福岡証券取引所 （福岡県福岡市中央区天神二丁目14番2号） 株式会社リンガーハット本社 （東京都品川区大崎一丁目6番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第48期 第3四半期連結 累計期間	第49期 第3四半期連結 累計期間	第48期
会計期間	自平成23年 3月1日 至平成23年 11月30日	自平成24年 3月1日 至平成24年 11月30日	自平成23年 3月1日 至平成24年 2月29日
売上高(千円)	25,831,441	25,614,106	34,677,756
経常利益(千円)	727,684	367,273	1,199,503
四半期純利益又は四半期(当期)純損失()(千円)	251,313	125,704	420,761
四半期包括利益又は包括利益(千円)	316,557	112,309	434,629
純資産額(千円)	9,925,519	9,698,924	9,807,376
総資産額(千円)	24,502,059	24,765,217	23,698,167
1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期(当期)純損失金額()(円)	11.39	5.69	19.07
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額(円)	-	-	-
自己資本比率(%)	40.5	39.2	41.3

回次	第48期 第3四半期連結 会計期間	第49期 第3四半期連結 会計期間
会計期間	自平成23年 9月1日 至平成23年 11月30日	自平成24年 9月1日 至平成24年 11月30日
1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額()(円)	0.18	1.15

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には消費税等は含まれておりません。
3. 売上高にはその他の営業収入を含めております。
4. 第48期第3四半期連結累計期間及び第48期の潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、1株当たり四半期(当期)純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
5. 第49期第3四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
6. 第48期第3四半期連結累計期間の四半期包括利益の算定にあたり、「包括利益の表示に関する会計基準」(企業会計基準第25号 平成22年6月30日)を適用し、遡及処理しております。

2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1)業績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災からの復興需要により緩やかに回復がみられるものの、長期化するデフレや円高の影響により、先行きは不透明な状況が続いております。

外食産業におきましても、市場規模に拡大が見られない状況の中、競合他社はもとより小売業全体で業種を超えた競争状態となっており、引き続き厳しい状況が続いております。

このような状況の中、当社グループは「創業50周年を迎え、更なる企業体質の強化を目指そう」をスローガンに、グループ店舗のQSC(Q=クオリティ・S=サービス・C=クリンリネス)の向上を図りつつ、コスト削減を実施し、減収であっても増益となる企業体質づくりを目指してまいりました。

店舗の出店及び閉店につきましては、当第3四半期連結累計期間中に「長崎ちゃんぽんリンガーハット」は国内34店舗、海外6店舗の計40店舗を出店し、国内4店舗を閉店いたしました。「とんかつ浜勝」は国内に1店舗を出店し1店舗を閉店いたしました。結果、平成24年11月末の店舗数は前期末より36店舗増加し、国内622店舗、海外9店舗の当社グループ合計631店舗となりました。(内直営477店舗、FC154店舗)

また、当第3四半期連結累計期間の既存店売上高前年比は96.7%となりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高25,614百万円(前年同期比0.8%減)、営業利益462百万円(同43.2%減)、経常利益367百万円(同49.5%減)、四半期純利益125百万円(前年同期は四半期純損失251百万円)となりました。

セグメント別の概況は次のとおりであります。

(長崎ちゃんぽん事業)

「長崎ちゃんぽんリンガーハット」では、前連結会計年度に材料高騰や使用食材の高品質化による原材料費上昇に対応するため価格改定を実施いたしました。しかし、長期化するデフレ経済の中で、低価格帯の外食店やファストフード店に加えコンビニエンスストアとの競争状況が続いております。

この状況に対応するため、税込490円からのランチメニュー等、低価格メニューを充実させるとともに店舗立地タイプ別に様々な営業施策を講じ業績向上に努めてまいりました。

しかしながら、低価格指向への対応の遅れなどにより当第3四半期連結累計期間の既存店の対前年比は売上高94.6%、客数92.1%、客単価102.7%となりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高18,944百万円(前年同期比2.3%減)、営業利益246百万円(同64.2%減)となりました。

(とんかつ事業)

「とんかつ浜勝(はまかつ)」では、専門店としての原点に戻り、お客さま満足度向上のため、品質・サービスに磨きをかけるとともに、消費者の低価格志向に対応するためにメニュー戦略を見直しお手頃な新ランチメニュー(税込690円)や990円シリーズと銘打った定食の販売等、新規来店客数の増加を図りました。また、モバイル会員限定のクーポン配信でリピーター増加策も積極的に展開いたしました。

このような販売施策が奏功し、当第3四半期連結累計期間の既存店の対前年比は売上高102.9%、客数104.9%、客単価98.0%となりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高6,283百万円(前年同期比5.1%増)、営業利益99百万円(前年同期は営業利益3百万円)となりました。

(和食事業)

和食事業の「長崎卓袱浜勝(ながさきしっぽくはまかつ)」につきましては、長崎の郷土料理である卓袱料理を観光客はもちろんのこと長崎の地元の皆さまにも楽しんでいただけるように上質のおもてなしとともにお手ごろな価格で提供しております。

当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高150百万円(前年同期比1.3%減)、営業損失4百万円(前年同期は営業利益1百万円)となりました。

(設備メンテナンス事業)

設備メンテナンス事業の「リンガーハット開発株式会社」につきましては、当社グループ店舗の設備メンテナンスや機器保全が主な事業であり、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高1,402百万円(前年同期比11.2%減)、営業利益119百万円(同5.4%減)となりました。

(2) 財政状態

資産、負債及び純資産の状況

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ1,067百万円増加し24,765百万円となりました。これは主に新規出店及び工場投資に伴う固定資産の取得等によるものであります。

負債は前連結会計年度末に比べ1,175百万円増加し15,066百万円となりました。これは主に長期借入金の増加によるものであります。

純資産は前連結会計年度末に比べ108百万円減少し9,698百万円となりました。これは主に剰余金の配当に伴う減少によるものであります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について、重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、115百万円であります。

なお、当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	46,000,000
計	46,000,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成24年11月30日)	提出日現在発行数 (株) (平成25年1月11日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	22,067,972	22,067,972	東京証券取引所 (市場第一部) 福岡証券取引所	単元株式数 100株
計	22,067,972	22,067,972		

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (千株)	発行済株式総 数残高 (千株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額 (千円)	資本準備金残 高(千円)
平成24年9月1日～ 平成24年11月30日	-	22,067	-	5,066,122	-	2,079,391

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7)【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成24年8月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成24年8月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	
議決権制限株式(その他)	-	-	
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 10,000	-	
完全議決権株式(その他)	普通株式 22,009,500	220,095	
単元未満株式	普通株式 48,472	-	一単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	22,067,972	-	
総株主の議決権	-	220,095	

(注)「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式44株が含まれております。

【自己株式等】

平成24年8月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社リンガーハット	長崎県長崎市鍛冶屋町6番50号	10,000	-	10,000	0.04
計		10,000	-	10,000	0.04

(注)当第3四半期会計期間末時点での自己株式数は10,044株、発行済株式総数に対する所有株式数の割合は0.04%であります。

2【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成24年9月1日から平成24年11月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成24年3月1日から平成24年11月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年2月29日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,081,636	1,244,281
売掛金	314,023	386,434
商品及び製品	87,327	52,804
仕掛品	17,579	6,591
原材料及び貯蔵品	275,961	305,985
前払費用	302,011	272,210
繰延税金資産	100,660	175,277
その他	424,559	626,493
流動資産合計	2,603,758	3,070,077
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	7,809,151	8,289,947
機械装置及び運搬具(純額)	674,104	833,865
土地	6,053,327	6,001,327
リース資産(純額)	315,619	292,998
建設仮勘定	47,275	105,422
その他(純額)	494,951	578,976
有形固定資産合計	15,394,429	16,102,539
無形固定資産		
投資その他の資産		
投資有価証券	526,547	500,962
差入保証金	915,475	1,033,166
建設協力金	420,468	333,986
敷金	2,658,892	2,542,065
繰延税金資産	632,680	632,731
その他	392,502	397,264
貸倒引当金	22,605	22,605
投資その他の資産合計	5,523,959	5,417,570
固定資産合計	21,094,409	21,695,139
資産合計	23,698,167	24,765,217

	前連結会計年度 (平成24年2月29日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年11月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	554,795	642,272
短期借入金	3,028,000	3,130,000
1年内返済予定の長期借入金	1,352,931	1,438,056
1年内償還予定の社債	248,000	255,000
未払費用	728,094	1,002,449
リース債務	67,255	76,145
未払法人税等	301,928	172,323
未払消費税等	107,948	85,619
株主優待引当金	62,408	51,521
店舗閉鎖損失引当金	31,192	-
資産除去債務	76,071	-
その他	828,837	854,982
流動負債合計	7,387,461	7,708,370
固定負債		
社債	520,000	550,000
長期借入金	3,144,295	3,889,162
長期未払金	421,664	419,941
リース債務	263,571	232,549
繰延税金負債	11,186	13,331
退職給付引当金	850,952	906,914
長期預り保証金	313,389	321,589
資産除去債務	941,805	1,007,967
その他	36,464	16,466
固定負債合計	6,503,329	7,357,922
負債合計	13,890,791	15,066,293
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,066,122	5,066,122
資本剰余金	4,427,356	4,427,356
利益剰余金	283,503	188,614
自己株式	10,927	11,096
株主資本合計	9,766,055	9,670,997
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	42,882	35,336
為替換算調整勘定	1,561	7,410
その他の包括利益累計額合計	41,321	27,926
純資産合計	9,807,376	9,698,924
負債純資産合計	23,698,167	24,765,217

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年3月1日 至平成23年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年3月1日 至平成24年11月30日)
売上高	24,798,928	24,581,421
売上原価	8,417,427	8,361,010
売上総利益	16,381,500	16,220,411
その他の営業収入	1,032,513	1,032,685
営業総利益	17,414,013	17,253,096
販売費及び一般管理費	16,599,702	16,790,398
営業利益	814,311	462,697
営業外収益		
受取利息	8,078	6,584
受取配当金	5,308	4,667
雇用促進奨励金	4,835	4,404
その他	5,124	14,824
営業外収益合計	23,347	30,480
営業外費用		
支払利息	94,721	93,017
社債発行費	-	2,817
持分法による投資損失	4,109	10,029
その他	11,143	20,040
営業外費用合計	109,974	125,904
経常利益	727,684	367,273
特別利益		
収用補償金	20,737	121,502
店舗閉鎖損失引当金戻入額	13,617	-
特別利益合計	34,354	121,502
特別損失		
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	612,382	-
固定資産除却損	24,911	109,745
投資有価証券評価損	965	13,747
固定資産売却損	8,176	-
店舗閉鎖損失引当金繰入額	-	2,528
減損損失	5,944	11,121
災害による損失	58,789	-
本社移転費用	-	24,071
その他	15,922	2,426
特別損失合計	727,092	163,641
税金等調整前四半期純利益	34,946	325,134
法人税等	286,260	199,430
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失()	251,313	125,704
四半期純利益又は四半期純損失()	251,313	125,704

【四半期連結包括利益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年3月1日 至平成23年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年3月1日 至平成24年11月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失()	251,313	125,704
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	62,624	7,545
為替換算調整勘定	2,619	5,848
その他の包括利益合計	65,243	13,394
四半期包括利益	316,557	112,309
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	316,557	112,309

【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年3月1日 至平成24年11月30日)
税金費用の計算	税金費用については、当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

【追加情報】

	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年3月1日 至平成24年11月30日)
(会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用)	
第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。	

【注記事項】

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年3月1日 至平成23年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年3月1日 至平成24年11月30日)
減価償却費	832,562千円	918,328千円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自平成23年3月1日至平成23年11月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年5月25日 定時株主総会	普通株式	110,292	5	平成23年2月28日	平成23年5月26日	利益剰余金
平成23年10月11日 取締役会	普通株式	110,290	5	平成23年8月31日	平成23年11月17日	利益剰余金

当第3四半期連結累計期間(自平成24年3月1日至平成24年11月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年5月24日 定時株主総会	普通株式	110,290	5	平成24年2月29日	平成24年5月25日	利益剰余金
平成24年10月10日 取締役会	普通株式	110,289	5	平成24年8月31日	平成24年11月15日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成23年3月1日至平成23年11月30日)
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	長崎 ちゃんぽん	とんかつ	和食	設備 メンテナンス	合計		
売上高(注)3							
外部顧客への売上高	19,307,693	5,977,030	152,854	393,862	25,831,441	-	25,831,441
セグメント間の内部 売上高又は振替高	78,815	-	-	1,185,929	1,264,744	1,264,744	-
計	19,386,509	5,977,030	152,854	1,579,792	27,096,186	1,264,744	25,831,441
セグメント利益又は損 失()	687,803	3,239	1,509	126,243	818,796	4,485	814,311

- (注)1. セグメント利益又は損失()の調整額はセグメント間の取引消去であります。
2. セグメント利益又は損失()は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。
3. 売上高にはその他の営業収入を含めております。
4. 第1四半期連結会計期間から、「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号平成20年3月31日)を適用しております。
これに伴い、従来と同一の方法によった場合と比べ、セグメント利益又は損失()は「長崎ちゃんぽん」で29,846千円、「とんかつ」で10,790千円、「設備メンテナンス」で733千円それぞれ減少し、「調整額」が396千円増加しております。

当第3四半期連結累計期間(自平成24年3月1日至平成24年11月30日)
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	長崎 ちゃんぽん	とんかつ	和食	設備 メンテナンス	合計		
売上高(注)3							
外部顧客への売上高	18,839,685	6,252,062	150,834	371,523	25,614,106	-	25,614,106
セグメント間の内部 売上高又は振替高	105,101	31,661	-	1,030,595	1,167,358	1,167,358	-
計	18,944,787	6,283,724	150,834	1,402,119	26,781,465	1,167,358	25,614,106
セグメント利益又は損 失()	246,568	99,711	4,987	119,477	460,770	1,926	462,697

- (注)1. セグメント利益又は損失()の調整額はセグメント間の取引消去であります。
2. セグメント利益又は損失()は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。
3. 売上高にはその他の営業収入を含めております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年3月1日 至平成23年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年3月1日 至平成24年11月30日)
1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額()	11円39銭	5円69銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益又は四半期純損失()(千円)	251,313	125,704
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益又は四半期純損失()(千円)	251,313	125,704
普通株式の期中平均株式数(千株)	22,058	22,057

(注)1. 前第3四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失金額であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 当第3四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

平成24年10月10日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

(イ) 配当金の総額.....110,289千円

(ロ) 1株当たりの金額.....5円00銭

(ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日.....平成24年11月15日

(注) 平成24年8月31日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いを行っております。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年 1月10日

株式会社 リンガーハット
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 森 行一 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 堺 昌義 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社リンガーハットの平成24年3月1日から平成25年2月28日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成24年9月1日から平成24年11月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成24年3月1日から平成24年11月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社リンガーハット及び連結子会社の平成24年11月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれておりません。